

## 関東支部「秋の見学会」に参加して

毎年恒例の関東支部「秋の見学会」が11月12日（金）、13日（土）に行われた。今年は千葉方面ということで、例年よりは近いところの見学会であった。2日間の主な見学先は、小野田セメント（株）中央研究所、京セラ（株）佐倉工場、日本板硝子（株）千葉工場、林精密電子（株）、里見窯及び小泉酒造であった。

見学当日は朝からのあいにくの雨で、筆者が到着したのは集合時間の午前8時の数分前になり、ほとんどの参加者は既に集まっていた。バスに乗り込むと、昨年もみた常連者の顔、今年新たに参加した顔があり、楽しい2日間の見学会を予感させた。定刻の午前8時10分には、参加者37名を乗せたバスは東京駅丸の内明治屋前より、一路最初の目的地千葉県佐倉市に出発した。バスはすぐに首都高速道路に入り湾岸道路で千葉方面へ向かった。車窓から雨で煙る東京ベイエリアを臨みながら、最近注目を浴びている巨大な人工降雪スキー場の建物を横目を通りすぎ、バスは郊外の景色の中に消えていった。

最初の見学先の小野田セメント（株）中央研究所には、時間どおりの午前9時10分に着いた。関東支部長の齋藤所長から、まずは新聞やニュースを賑わせた秩父セメントとの合併の説明があり、その後研究所の組織や現在取り組んでいる研究などの話があった。小野田セメント（株）中央研究所は昨年、東京都江東区豊洲から千葉県佐倉工業団地内に8万m<sup>2</sup>の土地に大きな4棟の建物を建設し移転した。中央研究所には、セメント・コンクリート、セラミックス、建設材料及び生産技術の各研究所のほか、新規分野や今年新たに設けられた資源リサイクルの研究所もあり、セメント・コンクリート、セラミックス、建築材料などの研究開発はもとより、先端材料、フッ素ケミカル、バイオテクノロジー、資源リサイクルにも力を注いでいるという。所内ところ狭しと並ぶ研究機器や装置を約1時間にわたり見学した。そこは企業の研究所というよりは公的研究機関や理料系大学のようなであった。玄関口で記念撮影し、そこから10分ほどの次の見学先、京セラ（株）佐倉ソーラーエネルギーセンターへと向かった。午前11時着。ソーラーシステムの見学

ということで同センターに到着したときには朝から降っていた雨もあがっていた。このセンターはシリコン多結晶体を使った太陽電池による太陽光発電システムをモジュール化して、国内外を問わず設計施工を行っている拠点であった。実際の設置例を写真などで説明を受け、更に敷地内に設置されているソーラーシステムを見学した。ここ数年間は国からの補助があり一般住宅にも安く設置できるとの話があった。バスの中で昼食をとり、午後1時45分に日本板硝子（株）千葉工場に到着。千葉工場には三つの溶解窯があり、そこから出てくるガラスを成形、徐冷、検査、切断する一連の工程をみることができ、普段は机上でしかみたことのない板ガラスの製造工程を実際に目の当たりにできた貴重な体験であった。約2時間の長きにわたる見学会を終え、バスは今年の宿泊地の天津小湊へ向かった。午後5時40分宿に着。参加者の久しぶりの再会や新たな出会いによって、その夜の懇親会も盛り上がったことはいうまでもない。

2日目。この日も雨はそば降っていた。見学初日の疲れを癒し、記念撮影後の午前8時10分には宿をあとにした。鯛の浦を遊覧し、日連上人が生まれた地に建立されたという誕生寺を参拝した後、バスは館山に向かった。見学先の林精密電子（株）には午前10時15分に着いた。同社は、設立当初、時計部品の組立を行っていたが、その技術で培った精密加工や細密技術をベースに、半導体の組立へと時代の変化を先取りしてきた会社であった。規模的には小さかったが大手メーカーでの半導体製造の技術が手に取るようにわかった。1時間半程の工場見学の後、近くにある房総の陶芸、里見窯を訪ね、館山郊外のシーサイドホテルで昼食をとり、最後の見学地の小泉酒造に到着したのは午後2時25分であった。小泉酒造は酒名「東魁盛」で知られている酒蔵で、今年の稲作の冷害によって時期が少し遅れているとのこと、醸造の真っ最中であった。蔵の中で説明を聞き、帰りに利き酒をしたが、それは麴の利いた芳醇な味わいであった。

帰路東京へ向けてバスは雨の高速道路を疾走し、渋滞で遅れることなく東京駅には午後6時35分に着いた。有意義な2日間であった。御協力頂いた会社関係の方々、本見学会を企画され、実施された幹事の方々、心よりお礼申し上げる。

（千葉工業大学工業化学科 橋本和明）



小野田セメント（株）中央研究所にて